



今月の江戸しぐさ「陽に生きる」

12

幕末、オズボーンという人が日本滞在中に、不機嫌でむっつりした顔には一人として出あわなかつたと記録してあるとおり、ペリー等の外国人観察者の多くが、江戸の人達がよく笑い、よく歌い皆幸せそうにみえると記録しています。

豊かな自然と清潔な町並みと快適な生活環境（当時上水道がきちんと整備されていたのは世界の都市で江戸の町しかありませんでした）があり、日本に乞食がいるのか論争になるほど貧富の差がありませんでした。

当時の日本人は知りませんでした。欧米ではすでに産業革命による石炭等公害が深刻になり、加えて工業化による格差社会の進行で明るい世相ではありませんでした。

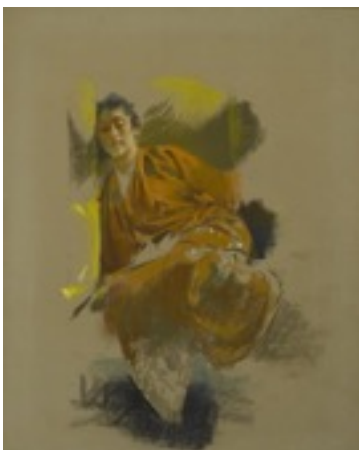
これらの過去の日本は、外国人にとってユートピアと写っていましたが、現代はどうでしょうか？

明治維新直後から始まった公害問題は1970年代高度経済成長期の光化学スモッグを頂点に広域で大規模な一般的な公害は改善されつつあるように思われます。また、いろいろ問題がありますが、経済規模の大きな先進諸国の中では失業率や格差は少ないと言われています。

明治維新以来、日本は西洋諸国に追いつこうと頑張ってきましたが、そろそろ自信と余裕をもって江戸の人たちのように明るく「陽に生きる」世相になってもよいように思います。

江戸時代の人達の特徴は、虚飾を避け、足るを知り、人生を楽しもうと積極的に考えていたように思われます。

明るい職員の多い病院、診療所はどんなに患者の心を救うでしょうか。明るく頼もしい職場でありたいものです。



日本の女性

ロバート フレデリック ブラム
Robert Frederick Blum
(1857~1903)

日本をこよなく愛したアメリカ人画家。
江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2
年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を
残してくれました。

